

推薦調書（アイデア部門）（注1）

推薦都道府県 静岡県

地方公共団体名	小山町		
アイデア名称	観光・宿泊・サイクリング等複数データを機械学習した対話型AIコミュニケーションアプリによる認知・観光誘致の実現		
連携自治体、企業、団体等	(株)Capex、トランスコスモス(株) <b>【ふじおやまサイクルエクスペリエンス共同事業体】</b>		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的な内容）	(種類) (注2)	①	(左記が①の場合の分野) 観光
	<p><b>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</b></p> <p>○ 小山町、(株)Capex、トランスコスモス(株)のコンソーシアムが、地域内外のサイクリスト等に対して、富士山周辺のサイクリングスポットや観光情報等を提供する対話型AIを開発し、滞在型サイクルツーリングの認知・誘客・魅力向上を目指すもの。また、ユーザーの対話・行動データを解析・集約し、オープンデータとして観光施策や企業活動等に活用できる新たな観光地経営改善モデル構築を目指すもの。</p> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <p>○ 小山町DXガイドライン（R3年度策定）の全体推進のため、連携協定を締結したトランスコスモス(株)との実証実験分野での連携事業第1弾。デジタルによる持続可能なまちづくり、地域産業のスマート化に取り組む。</p> <p><b>【解決する課題の具体的な内容】</b></p> <p>○ 小山町は起伏に富んだ地形に恵まれ、国内最大規模のツアーオブジャパン（富士山ステージ）など複数の自転車競技大会が開催されており、また東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技コースとなったことから、サイクリストの関心が高まっている。</p> <p>○ 一方で、周辺の他自治体と比較し、観光拠点としての認知が高くなく、特に滞在型観光、観光消費額に課題を抱えている。</p> <p>○ そこで、本事業では、サイクリング全般の基礎データ、地理データ、観光・サイクリングスポット等を機械学習した対話型AIを開発し、旅前・旅中・旅後のサイクリストと円滑なコミュニケーションを行い、町の認知拡大・満足度向上・再訪率の向上を図る。</p> <p>○ 対話型AIはアプリから起動し、そのアプリ上ではそのほかスタンプ機能、周辺地域のGPS検索・チェックイン機能、クーポン機能を持たせ、周辺観光施設での消費活動の活発化を図る。</p>		
デジタルの活用により目指す成果（数値）	<p><b>【取組が目指す総合的なアウトカム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊者数 2割向上</li> <li>・観光交流客数 令和2年度357万人 → 令和4年度360万人</li> </ul> <p>※富士山地域におけるサイクリングをテーマとした観光DX実証のため、実施の過程で集計するデータをふまえ、今後の目標値設定の参考としていきたい。</p>		

<p>本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>○ 本アイデアにあたっては、企業との連携、外部人材を活用することで、より実効性の高い事業とすることを目指している。</p> <p>○ 観光庁「DXの推進による観光・地域経済活性化実証事業」に応募し、採択の審査を受けている段階である。なお、採択され、事業の実施となった場合、町費用負担はなし。</p> <p>○ 町組織体制としては、観光部門の観光スポーツ交流課とDXガイドライン推進部門の企画政策課が連携し、継続的に取り組むDX事業として位置付ける予定。なお、DXガイドライン推進において、連携協定を締結するトランスコスモス(株)への支出費用はなし。</p> <p>○ 町内観光・宿泊施設の利用統計、サイクリングに関するデータ、RE S A S人流・経済データ、富士山南東部の点群データなど地域間複数データを機械学習させた対話型A Iの開発及びヴァーチャルキャラクターによるコミュニケーションの創出は先進的なアイデアとなっており、ユーザーの体験価値が一層高まることが期待される。</p> <p>○ さらには、A I対話データや行動データを収集・分析し、オープンデータとすることで、ユーザーのリアルなニーズや属性データをマーケティングデータとして活用することが可能となり、データに基づく新たなサイクルツーリズムE C・プロモーションといった観光地経営改善モデルの構築が期待される。</p>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月中：観光庁審査結果</li> <li>&lt;採択の場合&gt;</li> <li>・ 6月中：共同事業体協定締結</li> <li>・ 7月～：A I開発等準備</li> <li>・ ～11月：町内観光イベント開催に合わせ実証スタート</li> </ul> <p>※将来的には、小山町内のみならず、富士箱根広域でのデータ活用・展開の可能性がある。また、対話型A Iは、観光部門に限らず、VRやメタバースといったオンラインシステム上での行政サービスへの転用が期待できる。</p>

注1： 行や列の追加は行わないでください。行や列を拡大していただくのは差し支えありませんが、最大2ページの内で作成をお願いします。

注2： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① 域内市町村の取組で、デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。  
(・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災)
- ② 域内市町村の取組で、高齢者、障害者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。

「対話型AIコミュニケーションによる認知・観光認知【小山町】」概要図

小山町・(株)Capex・トランスコスモス(株)のコンソーシアムによる富士山地域におけるサイクリングをテーマとした観光DX実証実験

